

ケーブルテレビの 安定運営を

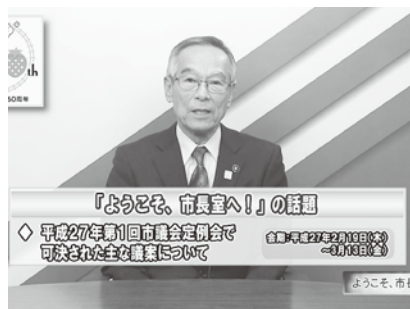
問 大根田（悦）議員 ケーブルテレビの安定運営を図るため、銀行とスポンサー契約を結んではどうか。

答 市長 銀行とスポンサー契約を締結しCMなどを放送することは、銀行としては視聴者へのPRに、市としても財源確保の手段になることから銀行だけに限らず、広く募集していきたい。

安定運営のためには、加入率の増加が最も重要であり、これまで加入する際の初期費用の減免やイベントなどでPRするなど加入促進を図ってきた。さらに、加入者アンケートの実施と戸別訪問による営業活動と併せ、番組編成やサ

ービス内容の検討を行うための意見も収集していく。

また、指定管理者制度を導入するため、公募の手続きを行っている。民間のノウハウを活用し、加入者サービスの向上と経費の削減が期待できることから、ケーブルテレビ施設の設置目的を最大限に活用できる事業者を選定していく。

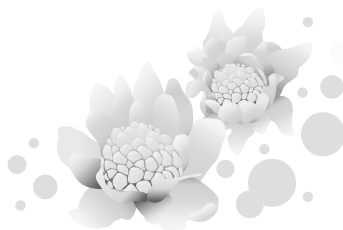


ようこそ市長室へ！

老朽化した橋梁の 修繕計画は

問 木村議員 主要な道路にかかっている橋梁の老朽化が見受けられるが、修繕計画はあるのか。

答 市長 橋長15m以上の31橋は、平成22年度からの2か年で定期点検を行った結果、緊急に修繕が必要な箇所は確認されなかった。



平成24年度にはこの31橋に関する橋梁長寿命化修繕計画を策定し、平成26年度から修繕工事を実施している。

また、平成26年に道路法施行規則が改正され、橋長2m以上の橋梁は5年に1回の頻度で近接目視点検が義務付けられたため、平成26年度から既に点検を実施した橋長15m以上の橋を含む490橋を、順次、点検しており、1順目の点検を平成30年度までに終了させる。その後、点検結果を踏まえ、橋梁長寿命化修繕計画を策定し、計画的な修繕を実施していく。

これら一連の作業により、これまでの事後対応から計画的な予防保全型の維持管理へ転換し、建設、維持管理、架け替えまでのトータルコストの縮減と予算の平準化を図っていく。



阿部岡橋（小貝川）

道路側溝の 改修計画は

問 木村議員 市街地を中心とした現場打ち側溝の老朽化が著しい箇所があるが、今後、改修をどのように進めていくのか。また、側溝に土砂が堆積し、排水能力が低下している箇所があるが、解消策をどのように考えているのか。

答 建設部長 道路側溝は、現場打ち側溝で整備が進められた箇所があり、経年劣化等による損傷により、排水能力が損なわれている箇所が見受けられる。それらの修繕や改修については、職員によるパトロールや市民からの連絡により、現場を調査し、危険性・緊急性のあるところから、順次、修繕等を行い、排水能力の改善を図っている。側溝に堆積する土砂の清掃については、原則、地域の方にお願いでお願いしている。側溝の清掃は、現場打ち側溝の清掃を進め、排水機能の向上を図っていく。

議会基本条例の制定に向けて

3月11日に行われた議員協議会で、議会基本条例の制定に関して、議長提案により、次のとおり申し合せが行われた。
「議会基本条例の制定について、次の任期において継続して取り組むことの申し合せ」
(提案の趣旨)
真岡市自治基本条例第9条の趣旨を踏まえるとともに、これまでの議会としての取組みを無駄にすることなく、次の任期に果たすこととなく、次の任期につなげることを目的とする。
なお、「継続して取り組むこと」の申し合せであり、将来、条例を制定する場合において、条例の名称、規定する項目、内容、その運用方法、また、どのような組織で検討するか等を含めて、今後の課題とするものである。